

ブラック・セラミック製のIWC 「インチュニア・オートマティック 42」

シャフハウゼン/ジュネーブ、2025年4月1日。IWCシャフハウゼンは、ジュネーブで開催されるウォッチズ&ワンダーズでブラック・セラミック製の「インチュニア・オートマティック 42」を発表します。「インチュニア・オートマティック 42」は、ジェラルド・ジェンタによるケース一体型ブレスレットのデザインと、フルセラミックの仕様とを初めて組み合わせたモデルです。象徴的なデザインをセラミックで忠実に再現するために、この時計は革新的なマルチパーツ・セラミックというケース構造を採用しています。このモデルは、サテン、サンドブラスト、ポリッシュ仕上げを組み合わせるセラミック製パーツの仕上げを細部に至るまでこだわることで、他とは一線を画しています。サファイアガラスの裏蓋からは、ペラトン自動巻き機構、セラミック製パーツを装備する、パワーリザーブ60時間のIWC自社製キャリバー82110を見ることができます。

セラミックは非常に硬度が高く、傷がつきにくいだけでなく、スチールよりも軽く、温度変化の影響を受けません。これらの特性により、腕時計に使用するのに理想的な素材となっています。IWCシャフハウゼンのセラミックに関する専門知識は、ほぼ40年にわたって蓄積されてきました。1986年、スイスの高級時計マニュファクチュールであるIWCは、酸化ジルコニウム・セラミック製ケースを備えた世界初の腕時計を発表しました。マイルストーンとなったこのモデルの発表以降、IWCのエンジニアはこの分野での技術開発を続け、窒化ケイ素、炭化ホウ素、着色セラミックといった、まさに革新的な素材を導入し、最近ではセラミック・マトリックス・コンポジット (CMC) を使用した初の時計ケースを製造するに至っています。

「インチュニア・オートマティック 42 (Ref. IW338903)」は、ジェラルド・ジェンタによるケース一体型ブレスレットのデザインと、フルセラミックの仕様とを初めて組み合わせたモデルです。ケースリング、ベゼル、裏蓋リングはすべてブラックの酸化ジルコニウム・セラミック製です。リュースガードやリュースなどの追加パーツも、この非常に硬く傷がつきにくい素材で作られています。中央のリンクを介してケースに繋がる一体型のブラック・セラミックブレスレットは、人間工学に基づく完璧な設計により、快適な着用感をもたらします。セラミックは特に軽い素材なので、ブレスレットはより快適に着用できるのです。ブラックの文字盤には、IWCインチュニアの特徴的なデザインである、細いラインとスクエアで構成された個性的なグリッド・パターンが採用されています。優れた視認性を確保するため、ブラックの針とメタル・マーカーにはスーパールミノバ (Super-LumiNova®) が塗布されています。

マルチパーツ・ピュア・セラミックという ケース構造

「インチュニア・オートマティック 42」は、セラミックで象徴的なインチュニアのデザインを忠実に再現したモデルで、可能な限りスリムなスタイルを実現しています。これを実現するため、IWCは3つのパーツから成るセラミックケース構造を採用しました。ケースリング、ベゼル、裏蓋リングはすべてセラミック製です。ベゼルと裏蓋リングは機能的なネジでケースリングに固定されるため、この構造では内側にもチタン製リングが必要になります。そのリングは表と裏のネジに適応し、ムーブメントを保持するとともに、10気圧の高い防水性に寄与しています。表と裏のサファイアガラスは、チタン製リングで保持するのではなく、セラミック部分に直接圧着されています。この革新的なアプローチにより、オリジナルのステンレススチール製ケースの構造を忠実に保持したセラミック製ケースが実現しました。インチュニアの特徴的なプロポーションと複雑な角度を維持しながら、構造の完全性と防水性を確保できたことは、優れたデザインとエンジニアリングの成果と言えます。

セラミックを仕上げる 高水準のディテール

ビッカース硬度、約1300の酸化ジルコニウム・セラミックは、地球上で最も硬い素材の1つです。焼結プロセスを経たセラミックは、ダイヤモンドチップのツールでしか加工できません。IWCは「インチュニア・オートマティック 42」において、セラミックにおける仕上げの限界を押し広げま

した。ケースのパーツにはサテン仕上げの後、滑らかなサンドブラスト仕上げが加えられ、エッジ周りには繊細なポリッシュ仕上げが施されます。プレスレットのリンクも同様に、サテン、サンドブラスト、ポリッシュ仕上げを組み合わせた精巧な表面処理が施されています。この何段階にもわたる非常に複雑な仕上げにより、洗練された美しさが生まれ、完璧なレベルの美しい光の反射が得られます。

**セラミック製のパーツを使用した
ペラトン自動巻き機構**

「インチュニア・オートマティック 42」は、IWC自社製キャリバー82110を搭載しています。ペラトン自動巻き機構は、両方向のローターの動きを効率的に主ゼンマイのエネルギーに変換し、60時間のパワーリザーブを蓄えます。非常に大きな負荷のかかる巻き上げ機構のパーツは、実質的に摩耗のない酸化ジルコニウム・セラミックでできています。自動巻きホイールと歯車止めはブラック・セラミック製、ローターのベアリングはホワイト・セラミック製です。テンプは4ヘルツで振動し、正確な計時機能を保証します。サファイアガラスの裏蓋から見えるこのムーブメントは、オールブラックの時計のデザインを引き立てます。

インヂュニア・オートマティック 42

REF. IW338903

特徴

機械式ムーブメント – ペラトン自動巻き機構 – 日付表示 – 秒針停止機能付きスモールセコンド –
サファイアガラスのシースルー裏蓋

ムーブメント

IWC自社製キャリバー	82110
振動数	28,800回／時 (4 Hz)
石数	22
パワーリザーブ	60時間
巻き上げ	自動巻き

時計

素材	ブラック・セラミック製ケース、ブラックの文字盤、ブラックの針とアプライド・インデックス、ブラック・セラミックリユーズ、ブラック・セラミックプレスレット、バタフライ・クラスプ
ガラス	両面反射防止加工を施したドーム型サファイアガラス
防水性	10気圧
直径	42 mm
厚さ	11.6 mm

IWCシャフハウゼン

IWCシャフハウゼンは、スイス北東部のシャフハウゼンに拠点を置く、スイスの大手高級時計メーカーです。ポルトギーゼやパイロット・ウォッチなどのコレクションを擁するこのブランドは、エレガントな時計からスポーツ時計まで、あらゆる種類の時計を扱っています。1868年、米国の時計技師でエンジニアでもあったフロレンタイン・アリオスト・ジョーンズが設立したIWCは、人間ならではの職人技と創造性、その最良の部分と最先端の技術および工程とを組み合わせ、時計製造に対する独自のエンジニアリングで知られています。

150年以上にわたる歴史の中で、IWCは精巧かつ丈夫で使い勝手のよいプロ仕様の計器時計や、複雑機構（とりわけクロノグラフとカレンダー機能）を組み込んだ時計をつくり、高い名声を得てきました。チタンやセラミックの採用の先駆者であるIWCは、現在、カラーセラミック、セラタニウム®、チタンアルミナイドなどの先進的な素材を用いた、高度なエンジニアリングと専門知識を駆使したケースも製造も行っています。

持続可能な高級時計の第一人者であるIWCは、責任をもって素材を調達し、環境への影響を最小限に抑えるための努力を惜しみません。透明性、循環、責任という3つの柱に沿って、このブランドは何世代にもわたって長持ちする時計をつくり、責任をもって製品を製造、流通、修理するためのあらゆる要素を継続的に改善しています。さらに、IWCは子供たちと青少年への支援に向けて世界的に活動している組織とも提携しています。

ダウンロード

「インデュニア・オートマティック 42」の画像は、press.iwc.comから無料でダウンロードいただけます。

お問い合わせ

IWCシャフハウゼン

広報部門

Email press-iwc@iwc.com

Website press.iwc.com

インターネットおよびソーシャルメディア

Website iwc.com/ja

Facebook facebook.com/IWCWatches

YouTube youtube.com/iwcwatches

LinkedIn linkedin.com/company/iwc-schaffhausen

Instagram instagram.com/iwcwatches_jp

Pinterest pinterest.com/iwcwatches

#IWCwatches